

TOMIYA UNESCO NEWS LETTER

令和5年度 4号 発行：宮城県富谷高校ユネスコ企画部 2024年3月



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

Member of



UNESCO
Associated
Schools

課題研究中間発表

1月16日(火)に2学年の第1回目の課題研究中間発表が行われました。地域課題研究の各グループが研究テーマや研究方法、今後の研究の方向性などを発表しました。そこでは、自分たちの研究をスライドにまとめ、プレゼンテーションと質疑応答を行い、最も質の高い発表への投票をしました。

○各グループ中間発表1位の研究テーマは次のとおりでした。

- ・企画部 「市民バスの利用者を増やすには」
- ・市民生活部 「墓地需要の増加についての対策」
- ・保健福祉部 「幅広い年齢層に健康への関心を高める～健康維持や検診受診率の向上に向けて～」
- ・経済産業部①「シティブランドの認知度は人口増加につながるのか～私たちの富谷市拡大プラン～」
- ・経済産業部②「今ある蜂蜜について研究し、若い世代をターゲットに新たな特産品を開発する」
- ・建設部 「富谷市の森林保全」
- ・教育部 「国際社会にも柔軟に対応できる人材の育成」
- ・総務部 「自転車事故を減らし、安心安全に活用するためには」

「これからもっと女性が活躍できるまちにしていくための改善案を考える」

富谷市役所とのオンラインセッション①②

1月18日(木)に課題研究の時間に富谷市役所の企画部、経済産業部、市民生活部とのオンラインセッションを行いました。各班中間発表を終え、仮説の検証など研究を深める上での疑問点や検討課題等を直接、担当課の方々と意見交換することができました。この日は宮城大学の事業構想学群 教授の 渋田 一夫 先生と准教授の 宮崎 義久 先生にもお越しいただき、研究の進め方について具体的な指導・助言を各班にいただきました。また、1月23日(火)に今年度2回目となる富谷市職員とのオンラインセッションが行われ、保健福祉部、総務部・建設部、教育部の方々からアドバイスをいただきました。地域の課題解決に行政の立場で取り組んでいる方々からのアドバイスは、大変貴重なもので、研究活動をより深化させることができました。



課題研究 部内発表会



2月13日(火)に2学年の課題研究部内発表が行われました。地域課題を探究する各グループが、文献調査やインタビュー、アンケート結果をまとめ、研究テーマの解決や提案に至るプロセス等について発表しました。3月19日(火)の収穫祭予選に向けて、質疑応答も活発に行われました。各グループが改善すべき点を見つけ、よりよい発表を行うための視点を得ることができました。

4月20日(土)に収穫祭本選が予定されており、各部から選出された10グループが出場します。ぜひ、自分の研究に自信を持って発表できるように、納得のいく準備をしてください。

ユネスコスクール活動報告①留学生との交流

富谷高校に来た2人の留学生。2人とも2年4組(国際・人文類型混合クラス)で学校生活を過ごしました！



レツシヤイ・エルサ さん (Lleshaj Elsa)

出身国：スイス 登校期間：2023.4.10～8.18

活動部：ダンス部

ソナル・プレーマワンシャくん(Kandage Sonal Ranmitha Premawansa)

出身国：スリランカ 登校期間：2023.10.10～11.2

活動部：サッカー部



授業や学校行事、部活動といった様々な活動を通じて、多くの富高生と交流を深め、有意義な留学期間を過ごしました。

ユネスコスクール活動報告②韓国との学校間交流

令和5年度は、さまざまな国や地域に広がる 11,000 校以上のユネスコスクール・ネットワークを通じて、韓国の高校生と学校間交流を行いました。主にメールでのやりとりやプレゼントの交換、オンラインミーティングなどで交流を深めました。生徒たちは、今回の交流を異文化理解や問題解決能力向上の機会と捉え、前向きかつ柔軟な姿勢で臨み、楽しみながら交流することができました。



韓国の高校生から届いたプレゼントを開封する様子

収穫祭予選

3月19日(火)に2学年で実施してきた SDGs 課題研究「持続可能な地域とまちづくり」における発表の場として、収穫祭予選が行われました。発表会場は1年生の各教室で、各グループ5分の発表と質疑応答を行い、1年生と教員審査員の審査によって、順位を決定しました。1年生にとっては、プレゼンテーションの方法を学び、発表を聞いて質問する力や学問的に評価する力を養成することを目的とし、多くの学びへと繋がる貴重な機会となりました。



○各部、収穫祭予選第1位グループの研究テーマは次のとおりでした。

- ・企画部 「市民バスで住みやすいまちへ」
- ・市民生活部 「とみくると資源循環型のまちづくり作戦！」
- ・保健福祉部 「幅広い年齢層に健康への関心を高める～健康維持に向けて～」
- ・経済産業部①「シティブランドの認知度は人口増加につながるのか～私たちの富谷市拡大プラン～」
- ・経済産業部②「若い世代をターゲットとした特産品である蜂蜜を利用した美容製品を提案する」
- ・建設部 「森林の活用と保全」
- ・教育部 「富谷市の小学生の自己肯定感を上げていじめを減らそう」
- ・総務部 「これからもっと富谷市の女性が働きやすいまちにしていくための改善案を考える」

3月22日(金)には予選で2位となったグループの中から、収穫祭本選に出場する班がさらに2つ決まります。

収穫祭本選は、令和6年4月20日(土)にPTA 総会と併せて全校行事として実施されます。大学の先生方や富谷市長をお招きし、審査委員として皆さんの発表を審査していただきます。質の高い発表を期待しています。

JICA 国際協力 中学生・高校生エッセイコンテスト2023

- ・独立行政法人国際協力機構東北センター所長賞 新井山 悠奈さん(1-5) 賞状伝達式が終業式で行われました。
 - ・佳作 柴田 由香さん(1-7)
 - ・特別学校賞 宮城県富谷高等学校
- おめでとうございます！！

3 学年 T-time アンケート

3 年間の T-time における取り組みの総括として、28 回生(令和3年度入学生)にアンケートを行い、分析しました。

①令和3～5年度総合的な探究の時間[T-time]について(28 回生)アンケート結果・分析

(2023 年 7 月実施、28 回生223名/268名 回答)

※27 回生3年次(令和2年度入学生)との比較

令和5年度(28回生) T-timeアンケート結果

5：非常に当てはまる 4：まあまあ当てはまる 3：どちらでもない 2：あまり当てはまらない 1：全く当てはまらない 肯定評価(5・4)の割合(%)				
分類	番号	項目	R5 (総・推)	比較
課学	Q1	1～2年の「SDGs課題学習」(異常気象・環境、再生可能エネルギー、安全な水とトイレなどについて)は志望理由書の記入や面接において役立つと思いますか	69.7	38.3 ↑↑
	Q2	2～3年の「地域の問題についての課題研究」は、志望理由書の記入や面接において役立つと思いますか	90.3	39.6 ↑↑
課研	Q3	2～3年の「地域の問題についての課題研究」のテーマは、自分の進路希望の分野と関連付けて決めるべきだと思いますか	74.8	14.8 ↑
	Q4	外部講師(富谷市長、市役所職員、大学教授など)による講演会は、課題研究を進める上で役立つと思いますか	83.9	26.7 ↑
	Q5	研修ツアー(地域の問題に取り組んでいる各団体や企業への訪問)は、課題研究を進める上で必要だと思いますか	77.4	21.7 ↑
T全	Q6	T-timeの時間で、「人前でプレゼンする能力」が身についたと思いますか	90.3	16.7 ↑
	Q7	T-timeの時間で、「必要な情報を収集し分析する力」が身についたと思いますか	98.1	15.9 ↑
	Q8	T-timeの時間で、「ペアやグループの人と一緒に活動する力」が身についたと思いますか	94.8	8.4 ↑
	Q9	T-timeの時間は、全体として、自分の進路希望の達成に役立つ(関連している)と思いますか	83.8	21.7 ↑
	Q10	先輩へのアドバイスとして、T-timeの時間は積極的に取り組むべき時間であると伝えたいと思いますか	91.7	12.4 ↑

〈分析〉

Q1、2、9は肯定評価が昨年度(27回生)に比べ顕著に増加しています。T-timeの取組が進路実現につながっていることを実感できたと考えられます。また、Q4、5も肯定評価が増加しており、地域(市、大学等)との連携が課題研究を進める上で有効に作用していると言えます。Q6～8は9割程度の生徒が肯定評価をしています。探究の過程で、言語により分析し表現する力や、他者と協働して問題を解決しようとする力などが向上したことを実感しています。

②令和4～5年度課題研究について(28 回生)アンケート結果・分析 ※数値は回答数及び生徒数に対する割合

(2023/04/27実施、28 回生244名/268名 回答)

Q1.探究学習(課題研究)を通して、あなたが身につけた力、身につけたことは何ですか、選んでください(複数回答可)。

1	必要なデータを的確に収集する力	139(57%)
2	協働して物事をまとめる力	137(56%)
3	考えを出し合ってもとの考えを深める力	126(52%)
4	自分の取り組んだ課題に対する知識	117(48%)
5	課題を見つけ研究テーマを設定する力	97(40%)
6	まち(地域)の課題を見つける力	94(39%)
7	複数のデータを的確に分析する力	95(39%)
8	集めた情報から、自分自身の考えをまとめて表現する力	86(35%)
9	自分(の取り組み)が社会にどう貢献できるかを考える力	71(29%)
10	自ら主体的に学ぶ力	79(32%)
11	自分(の取り組み)が社会にどう貢献できるかを考える力	71(29%)
12	自分(の取り組み)が社会にどう貢献できるかを考える力	71(29%)
13	課題を実生活と結びつけて考える力	62(25%)
14	まち(地域)への愛着	40(16%)
15	自分がまち(地域)に果たすべき役割を把握する力	36(15%)
16	その他	1(0%)

〈分析〉

データ収集力、協働力、考えを出し合ってもとの考えを深める力、課題に対する知識が順に多くなっています。このことから、研究において既存の知識を生かして協働しながらデータをまとめ上げる力を養えたと考えられます。また、まち(地域)の課題を見つける力も多く生徒が身についたと感じており、仮想市役所の部署に所属させるという仕立てと、地域行政との連携とによって、地域の一人としての自覚が養われたと言えます。

Q2.探究学習(課題研究)で身につけた力を今後どう生かしたいですか(複数回答可)。

1	総合型選抜・推薦・履歴書の志望理由書作成	125(51%)
2	総合型選抜・学校推薦型選抜・就職の面接	109(45%)
3	社会に出てからの人との関わり	99(41%)
4	地域への貢献	56(23%)
5	地域の方との関わり	48(20%)
6	高校の授業での取り組み	47(19%)
7	社会に出てからの書類作り	44(18%)
8	大学・専門学校に進学後の学び	45(18%)
9	クラスや部活での友人との関わり	42(17%)
10	進学する学校選び	29(12%)
11	ボランティア活動	29(12%)
12	職業選び	21(9%)
13	その他	1 (0%)

〈分析〉

大学の総合型選抜・学校推薦型選抜に関する項目について、約50%の生徒が選択しており、多くの生徒が課題研究での学びを総合型選抜・学校推薦型選抜で生かそうと考えていました。実際、進学に向けて両選抜に出願した生徒数は全体の60%を超えました。

また、次点で「社会に出てからの人との関わり」「地域への貢献」が次いで多く、生徒自身が地域の一員としての責任を自覚するとともに、社会における自己への気づき、社会貢献の視座を養えたと言えます。

Q3.探究活動の中で、自分が特に頑張ったことは何か、選んでください(3つまで回答可)。

1	友人とのグループワーク(協議)	159(65%)
2	情報の収集・分析	147(60%)
3	発表(プレゼン)の仕方	105(43%)
4	スライドでの情報発信の工夫	97(40%)
5	テーマ設定(課題の発見)	63(26%)
6	文献調査	57(23%)
7	考察と解決策の提示	52(21%)
8	市役所職員とのオンラインセッション	23(9%)
9	フィールドワーク	23(9%)
10	その他	3(1%)

〈分析〉

協働学習における項目に多くの生徒が回答しました。

Q1、Q2と照合すると、新学習指導要領の趣旨の実現に向けて求められている、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を推進できたと言えます。それぞれの生徒が、自ら主体的に学び、見方・考え方を働かせながら自己の在り方生き方を考えていました。探究学習を通して、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成できたと言えます。

Q4.探究活動(課題研究)をやって、よかったことは何ですか。自由に書いてください。(一部抜粋)

- ・グループのメンバーと意見を出し合い、最終的にはひとつの解決策を決め、それに向かって頑張りあえたこと。
- ・課題解決に向けて、現実的な考えを多様な面から考えることができたこと。今後の大学生活や社会に出ても役に立つと思った。
- ・問題解決能力が高まり、どうすれば聴衆に納得してもらえるかを考えることができたこと。
- ・富谷市がもっと好きになって、自分でもこんな町にしたいという願望が生まれたこと。
- ・新たな視点から社会を捉えることができたこと。 〈他多数〉

Q5.その他、課題研究全般(収穫祭予選・本選を含む)について、感想を自由に記入してください。(一部抜粋)

- ・課題解決の方法や考え方、発表の仕方など参考になる班が沢山ありました。始める前は大変だなと思っていた収穫祭でしたが、とても熱中してやりきる事ができたので、良い経験となりました。
 - ・チームの仲間、先生たちと協力して納得の行くプレゼンができた。プレゼンの仕方、課題研究で得た情報や力を糧に、社会に出ても役立てていきたい。
 - ・このまちに住む自分達はその地域に貢献できるという機会があまり無かったので、今回の課題研究を行えて良かった。
- 4月の本戦には出場できなかったが、この課題研究で得たことを大学進学や今後の人生に活かしたい。 〈他多数〉

〈2学年の皆さん、集大成の発表に期待しています。

また、1学年の皆さん、4月の収穫祭は自分たちの未来の姿と考え、T-timeに取り組んでくださいね。〉